看護ケアの質の測定用具（看護婦用）の開発（1）

—信頼性および構成概念妥当性の検定—

○岡谷恵子（聖路加看護大学大学院）

田中美恵子（聖路加看護大学）

古庄しおり（長谷川病院）

南裕子（兵庫県保健環境部）

Holzemer, William L. (カリフォルニア大学サンフランシスコ校)・

I. はじめに

質の高い看護ケアを提供するためには、看護ケアを適切に評価し、改善することが必要である。我が国でも看護ケアの質の評価の重要性が認識され、研究が行われるようになってきたが、まだ看護ケアの質を測る適切な測定用具は開発されていない。そこで看護Q.A.研究会では、質保証のモデルに基づいて、入院患者の看護ケアの質を評価するための測定用具の開発を進めてきた。看護ケアの質を評価する場合に、実際に看護婦がどんなケアを行っているか、そしてそれらのケアをどのように認知しているかということをはっきりとすることが重要と考え、看護婦の視点からの質問紙を作成した。今回、その質問紙の信頼性と構成概念妥当性を検定したのでその結果を報告する。

II. 研究方法

1) 対象：東京都とその近県にある13の総合病院に勤務している看護婦・准看護婦（士）・助産婦 723名に対して、郵送法・留置法による質問紙調査を行った。回答者数は595名で、回収率は82.3%であった。

2) 測定用具：看護Q.A.研究会の作成した看護ケアの質質問紙（看護婦用）—以下QNC質問紙（看護婦用）と略す—を用いた。QNC質問紙（看護婦用）は、8つの臨床領域の看護婦（助産婦を含む）に面接調査を行い、そのデータの分析から明らかにされた11カテゴリー、94の質問項目から成る。11のカテゴリーは次の通りである。(1)食事 (2)排泄 (3)清潔 (4)活動 (5)環境 (6)休息 (7)観察・診断・検査 (8)症状 (9)治療・処置 (10)対人関係 (11)患者の気持ちに対する姿勢。この質問紙は4段階のリカートタイプの尺度で、すべての質問項目に「該当せず」の回答欄を加えた。

3) 分析方法：信頼性の検定には、Cronbach's alphaを用いた。構成概念妥当性は因子分析によって検定した。データの分析にはSPSS-Xを用いた。

III. 結果と考察

1) 対象の特徴：対象者の平均年齢は28.2才(SD=8.15)で、未婚者が全体の78.3%を占めていた。看護婦としての平均経験年数は6.4年(SD=6.38)、勤務病棟は外科系病棟31.4%、内科系病棟23.5%、混合病棟17.3%、産婦人科病棟20.0%、その他7.1%であった。職位は、スタッフナース88.6%、主任4.9%、婦長2.9%、その他3.0%で、免許の種類は、看護婦(士)79.7%、准看護婦(士)10.9%、助産婦

(注) * 尚この研究は看護QA研究会の会員51人全員によって行われたものである。

8.7%であった。

2) 分析の結果：今回の検定に先立って、まず最初に相関係数の分析と因子分析の結果から質問項目の中で特に問題となる11項目を除外した。今回は残りの83項目について信頼性と構成概念妥当性を検定した。

(1) 信頼性の検定：カテゴリー別の信頼係数は表1に示す通りである。すべてのカテゴリーの信頼係数が0.80以上を示しており、従ってこの質問紙の内的整合性は高いと言える。

(2) カテゴリー別の構成概念妥当性の検定：各カテゴリーが同じ概念に基づくものであるかどうかを、カテゴリー毎の有効回答による因子分析で検定した。その結果(表2)、「食事」「排泄」だけが第2因子まで抽出され、その他のカテゴリーは第1因子のみであった。しかし「食事」「排泄」の第2因子の因子負荷量二乗和はいずれも1.0以下であったので、すべてのカテゴリーが1因子性であると言える。各カテゴリーの第1因子の寄与率は37.6%～51.1%であった。また質問項目の中で、共通性が低く(0.4以下)、今後検討を要する項目もいくつか明らかになった。

(3) 質問紙全体の信頼性、構成概念妥当性の検定：83項目すべてに有効回答をした280人の素データで質問紙全体の信頼性と構成概念妥当性の検定を行った。信頼係数は0.98と極めて高かった。因子分析の結果、10因子(因子負荷量二乗和>1)が抽出され、累積寄与率は52.8%であった。しかし第1因子の寄与率が35.8%と高かったことや、すべての項目について第1因子以外の因子負荷量はいずれも低かったことからこの質問紙は1因子性であることが示唆された。

IV. 結論

今回の結果から、QNC質問紙(看護婦用)が看護ケアの質を測定するのに適した用具であることが検証された。しかし、検討を要する質問項目も示唆され、今後更に質問紙の精製を行う必要があるだろう。

表1 カテゴリー別の信頼係数

カテゴリー	alpha	項目数
食事	0.87	10
排泄	0.89	10
清潔	0.86	7
活動	0.90	9
環境	0.82	6
休息	0.80	4
検査	0.84	5
症状	0.86	8
検査	0.89	8
対人関係	0.86	9
姿勢	0.81	7

N=280

表2 カテゴリー別の信頼係数、因子分析結果

	有効回答数	項目数	第1因子 因子負荷量 二乗和	寄与率 %	問題項目No.*
食事	429	10	4.18	41.8	2
排泄	480	10	4.26	42.6	19、20
清潔	503	7	3.25	46.5	24
活動	533	9	4.41	49.0	39
環境	496	6	2.64	44.1	45、46
休息	545	4	1.87	46.7	50
検査	537	5	2.51	50.1	56
症状	520	8	3.50	43.7	58
治療	538	8	4.09	51.1	
対人	496	9	3.77	41.9	78、79、83
姿勢	512	7	2.63	37.6	88、90、91

*問題項目No.：因子負荷量・共通性が低く、検討を要する項目